

令和6年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立美和小学校

1 総括

（１）教育目標（学校経営案より）

心身ともに健やかで、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図るとともに、心豊かな人間形成と自己実現を目指し、国際社会に貢献する児童の育成を図る。

（２）本年度の重点努力目標

○ 目指す子どもの姿を明確にし、具体的な方策を用い、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせ、教職員が働きがいを感じられる魅力的な学校づくりを目指す。

＜目指す児童像＞

ア. 「力いっぱい」考える子 … 自ら考え追究する力や自ら学ぶ姿勢を身に付け、自己実現に努める態度を養う。

イ. 「笑顔いっぱい」思いやりのある子 … 礼節を重んじ、豊かな人間関係づくりに努める態度を養う。

ウ. 「元気いっぱい」がんばる子 … 命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生きぬく力を養う。

＜本年度の経営方針 ～令和の日本型学校教育を意識して～ ＞

- ・ ICT機器の効果的な活用 … 現職教育（算数）効果的な教科検証
- ・ 授業・評価の工夫 … 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・充実
- ・ 特別支援教育の充実 … 一人一人の個性に合わせた指導・支援の個別化
- ・ みーわんタイムの設定 … ソーシャルスキルトレーニング
- ・ PD・CA会（教員）の充実 … 全職員で構成された主体的・対話的で深い学びの場の確保
- ・ PTAボランティアセンターの設置 … できる人が、できるときに、できることをするPTA活動の
推奨 ※ 保護者・教職員・児童との交流

＜働き方改革にかかる業務改善に向けて＞

- ・ 時間を意識した業務活動
- ・ 校務支援システムの有効活用
- ・ 会議時間の短縮・精選
- ・ 学校行事のスリム化
- ・ 校務分掌の正・副担当者
- ・ 定時退校日の設定

＜不祥事防止に向けて＞

- ・ 風通しのよい、活力ある職場環境づくり
- ・ 教職員の不祥防止への意識を高めるための資料・情報提供
- ・ コンプライアンス面談の実施
- ・ 不祥事防止チェックリストの活用

2 自己評価の実施体制

（１） 調査期間 令和6年12月16日（月）～12月23日（月）

（２） 調査項目 別紙アンケート参照

（３） 調査対象 有効回答者数／対象者数

※ グーグルフォームズを用いたタブレット等で行うアンケートを実施

・児童 297名／326名 ・教職員 26名／26名
・保護者 206名／255名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考 察

(1) 児童の評価

- ・ 「先生の授業は分かりやすい」「宿題などの勉強をきちんとやっている」の項目で肯定的な評価の割合が高い。授業のめあてが明確であり、授業の振り返りで次時の課題を明確にしながら学習を積み重ねていると言える。
- ・ 「交通安全に心がけて登下校している」の項目で肯定的な評価の割合が高い。各通学班の班長・副班長を中心に、安全に対する高い意識をもって登下校していると言える。
- ・ 「地域の方や家族、先生たちが自分たちの力になってくれていると感じている」の項目で、肯定的な回答が5%ほど増えている。地域のボランティア活動やイベントに参加している児童もあり、登下校や下校後の生活、出前授業等において地域の方の力が子どもたちの励みになっていると言える。

(2) 教職員の評価

- ・ 22項目中、21項目において80%以上の肯定的な回答が見られ、教育活動が子どもたちの成長につながっていると考えている。
- ・ 「みーわんタイムは、子どもたちにとって意義があると思う」の項目では、10%程肯定的な回答が増えた。また、「子どもたちは、元気のよい挨拶ができていると思う」の項目では、肯定的な回答の割合が高い。実践2年目となり、活動のあらゆる場面で児童のコミュニケーション能力が高まったのと同時に、挨拶をすることの大切さを理解する児童が増えてきたと言える。
- ・ 「自分は、電話での問い合わせや保護者の来校時に親切に対応している」の項目では、肯定的な回答の割合が高い。相手意識をもって電話やインターホンに迅速に応答するように全職員が心がけていることの表れであると考えられる。
- ・ 「子どもたちは、タブレット端末をはじめとするICT機器の活用能力が向上していると思う」の項目では、肯定的な回答の割合が高い。校内研修でのアプリの利用方法の周知により、より授業における活用の幅が広がった成果だといえる。
- ・ 「美和小学校は、学校の様子を各種たよりやホームページでよく伝えていると思う」の項目では、肯定的な回答の割合が高い。毎日のホームページへのアクセス数は平均2,000件を超えており、保護者等の好評を得ている。
- ・ 「美和小学校は、保護者・地域と連携し、子どもたちを育てていると思う」の項目では、肯定的な回答の割合が高い。学校運営協議会の委員の皆様より地域の人材を紹介していただき、出前授業を行うことも増えている。

(3) 保護者の評価

- ・ 「お子さんは、友達など周囲の人に対して優しい言葉がけや行動をとっている」の項目に肯定的な割合が高くなった。道徳、人権タイム、みーわんタイムで行っている周りで生活する仲間を大切にする気持ちが高まった成果と言える。
- ・ 「先生は、基礎・基本を押さえた分かりやすい授業を工夫している」「お子さんは、学校での学習や生活を通して、お子さんは成長をしている」「お子さんは、タブレット端末を使った学習が楽しいと言っている」「家庭では、学校での出来事等を話題にして、親子でよく話し合いをしている」の項目に肯定的な割合が高くなった。学習面では、ワークシートの工夫やタブレット端末の活用が充実し、個に応じた学習を進めている成果が見られたと言える。また、学校生活で経験したことを家庭で話し、生かしていることが分かる。
- ・ 「先生は、電話での問い合わせや相談に親切に対応している」の項目に肯定的な回答が高い。学校での様子が迅速に伝わり、理解を得られていると言える。
- ・ 「お子さんは、交通ルールを守り、交通安全に気をつけている」の項目に肯定的な回答が高い。通学班での安全な登校、保護者だけではなく、地域の方による見守りの成果であると考えられる。

(4) 自由記述について

- ・ 「いつも温かいご指導ありがとうございます」「子どもたちのことをよく見て、しっかりと対応して下さっており感謝しています」「人柄がよさそうな先生が多くて良いです」等、教職員へのねぎらいの言葉がある一方、「子どもを把握してほしい」「理不尽に怒るのはやめてほしい」「結果ではなく、家庭や努力を褒める教育をしてほしい」等の叱咤激励の声もいただきました。
- ・ ホームページについては、「写真のアップを楽しみにしている」というお声と、「こまめなブログの更新よりも違うことに労力を費やしてほしい」というご意見がありました。
- ・ ミワリンピック（運動会）の充実や、欠席等の連絡をアプリで行えるようにしてほしい等のご意見もいただいております。
- ・ 「冬季の手洗いの際、水が冷たすぎるのでお湯が出るようにしてほしい」「登校指導を充実させてほしい」「公園で出したごみは自分で持ち帰るように学校で指導してほしい」等のご意見に関しては、市当局にお伝えさせていただくとともに、地域の方にもご協力を得ながら進めていければと思います。
- ・ 令和4年度からスタートしたPTAボランティア活動についてもご意見をいただいておりますので、役員会等で再度協議してまいります。

今後も様々なお声を大切に、よりよい美和小学校になるように努めてまいります。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 「先生は、基礎・基本を押さえた分かりやすい授業を工夫している」「先生は、電話での問い合わせや学校を訪問した時に親切に対応している」「お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいる」「学校は、保護者・地域と連携して、子どもを育てることに努めている」の項目について、児童・保護者・教職員ともに肯定的な評価が高い。学習はもちろんのこと、コミュニティの中の学校としての役割を果たしていけるよう、これからも教育活動を進めていきたい。
- (2) 本年度の課題であった、「お子さんは、いつも明るく、元気のよい挨拶ができています」の項目において、児童は10%肯定的な評価の割合が高まった。教職員の重点的に指導しようとする姿勢、地域への協力依頼が子どもたちの実感につながったと言える。

《課題》

- (1) 「お子さんは、進んで読書活動に取り組んでいる」の評価が児童・保護者・教職員ともに低い。
- (2) 「学校は、危険箇所や不審者対応への配慮がなされ、安全である」への肯定的な評価の割合が低い。
- (3) 「先生は、子どもの個性を大切にし、一人一人をよく理解している」「先生は、親身になって子どもの悩みに耳を傾け、相談にのっている」の児童の肯定的な評価が高まらなかった。

6 改善策

- (1) 引き続き図書室の蔵書や環境整備を行い、今後も読書活動の環境づくりに努めていきたい。絵本や小説ならではのよさを伝えられるよう、図書委員会、PTA読み聞かせボランティアの活動をより活性化し、美和図書館と連携していきたい。
- (2) 危険箇所や不審者への対応、老朽化が進んでいる箇所の保守・点検と修繕を早急に進めていく必要がある。保護者や地域の協力を得ながら、環境整備を行っていくことも考えていきたい。
- (3) ふだんからの子どもへの声掛けだけでなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の助言を求めながら教育相談活動をより充実させていきたい。
- (4) 教職員がゆとりをもって子どもと向き合える時間等を確保できるように、一層の働き方改革を推進していきたい。